

飛鳥バ

古きもの
・
明日のもの

2017年
春から
夏へ
No. 4



畝傍山、二上山を望む（八釣）

大原の里の盛んに繁る ※いち柴の
ように、いつになつたら逢えるのだ
ろう・・・と心が逸る
いつもいつも思っていたあなたに、
今晚やつと逢うことができたよ。
※「いち柴」「いち」は「いつ」と同じく勢いが盛んなことを表す

志貴皇子（巻四―五一三）

大原の このいち柴の
わが思ふ妹に いっしかと
今宵会へるかも

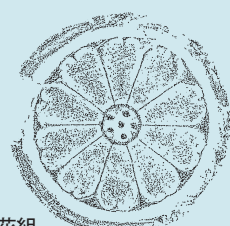


夕暮れ田々（小原）

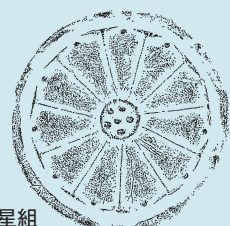
写真／加藤秀行

愛する恋人に逢えた喜びを歌っています。「このいち柴の」は「いっしか」を引き出すための序ですが、同音を繰り返すことでリズムが生まれ、心の喜びをリズムカルに表しています。今という、ヒップホップの「韻を踏む」という音楽的な効果でしょうか。
志貴皇子は天智天皇の四人の息子の一人ですが、政治との関与を持たない自由人として、万葉集に多くの歌を残しています。その子は光仁天皇となり、その子孫が平安時代以降の天皇として永く繁栄するのです。

※大原の里は現在の明日香村小原。この地は藤原鎌足の生誕の地といわれ、大原神社の近くの丸井戸は「産湯の井」と呼ばれ、鎌足が産湯をさすかった井戸として今も残っています。その下には八釣川が流れています。



花組



星組

（明日香村文化財課）
長谷川 透

明日の明日を
とくすくす

瓦のはじまり



588年（崇峻元年）、日本で最初の本格的寺院である飛鳥寺が造られはじめます。この造営にあわせて百済から僧や寺工、鑪盤博士、画工とともに瓦博士が来日しました。彼らがもたらした新しい技術と知識によって飛鳥寺は建立されます。当然のことながら飛鳥寺は百済や高句麗などの海外様式に彩られていました。屋根に葺かれた瓦もその一つです。

飛鳥寺の創建瓦には、瓦当文様と製作技術の特徴から、2つのグループに分類されます。『花組』と『星組』と呼んでいる2グループと同様の文様と技術によって作られた瓦が百済の扶余地域で出土しました。文献史料が記すように百済からきた瓦博士たちが飛鳥寺の瓦生産に深く関わっていたのでしよう。飛鳥寺造営以後、『花組』と『星組』は、豊浦寺や坂田寺、斑鳩寺、四天王寺などの瓦に受け継がれてゆきます。それは瓦の文様と製作技術に着目し比較することによって明らかとなったのです。日本の瓦の源流はまさに飛鳥寺から始まったのです。

平成29年（3月～9月）
イベントスケジュール

3月		4月		5月		6月		7月		9月	
下旬、 4月上旬	楽	8日	楽	3～5日	楽	3日	学	23日	学	中旬頃	楽
石舞台古墳 桜ライトアップ		飛鳥寺 花会式		飛鳥周遊クイズラリー		第273回あすか塾		飛鳥学講演会（東京） （事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	
		第271回あすか塾		飛鳥周遊クイズラリー		第85回現地研修会		（事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	
		岡寺 石楠花まつり		里山あそび広場 2017春		第85回現地研修会		飛鳥学講演会（東京） （事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	
		春の神武祭		飛鳥周遊クイズラリー		第85回現地研修会		飛鳥学講演会（東京） （事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	
		飛鳥寺 花会式		飛鳥周遊クイズラリー		第85回現地研修会		飛鳥学講演会（東京） （事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	
		飛鳥寺 花会式		飛鳥周遊クイズラリー		第85回現地研修会		飛鳥学講演会（東京） （事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	
		飛鳥寺 花会式		飛鳥周遊クイズラリー		第85回現地研修会		飛鳥学講演会（東京） （事前申込必要）		飛鳥周遊クイズラリー	

※2月1日現在の情報です。イベントに参加される際は必ず事前にご確認ください

●飛鳥総合案内所「飛鳥ひとの館」
●飛鳥京観光協会
●あすか塾・現地研修会のお問い合わせは「飛鳥の宿 祝戸荘」まで
☎0744(54)3624
☎0744(54)2362
☎0744(54)3551



発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団 〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1
TEL：0744-54-3338 FAX：0744-54-3638 E-mail：info@asukabito.or.jp HP：http://www.asukabito.or.jp

日本人の心のふるさと ～その保存と未来のために～

遊歩道をゆるゆる巡り、「四神の館」で壁画体験

発見から約33年。「キトラ古墳」(7世紀末〜8世紀初め)と「檜隈寺跡」周辺を国営飛鳥歴史公園に整備し、その中核施設「キトラ古墳壁画体験館『四神の館』」が昨年9月にオープンした。

建物は地上一階、地下一階建てで、地下の展示室では原寸大の石室模型や壁画発見から、修理の過程をドキュメンタリーで展示。四面の大型スクリーンに映し出されるマルチ高精細映像では壁画の筆跡や漆喰(壁・天井に使用される塗料)の質感もリアルで圧巻だ。まさに迫ってくる感じ。又、世界最古とされる朱線で描かれた4つの円の赤道や星を金箔で表現した天文図の天井は寝転がって観賞したいくらいにロマンと迫力がある。

おススメは本格的な海獣葡萄鏡や勾玉づくり等が体験できる同施設の「体験プログラム」(下記に詳しく)。

飛鳥管理センターの高橋 敦さんは、「遊歩道をゆっくり巡り、小高い丘でお弁当を広げたり、展望台で、檜原・明日香の風景を楽しんだり、心癒される時を感じてほしい場所です」と話す。

第2駐車場に車を止め、歩いてみる。於美阿志神社の鎮守の杜(檜隈寺跡)を出発し、公園を見渡せる山際の道をふらふら……北の展望台では、畝傍山・耳成山(大和三山)を遠くに見ながら、飽きることのない悠々の時を体感できる。まだオープンして半年。赤ちゃんの苗木も春には芽吹き、成長していくのが楽しみな公園一帯だ。



大迫力で四神が迫る。動物の頭と人間の体を持った十二支も見ごたえ十分

体験プログラム

「海獣葡萄鏡」
料金：1,500円

みがけば
みがく程
鮮明に映る
神秘的な鏡



「ウッドバーニング」
料金：300円

小さなお子様に大人気

土日祝日に予約なしで体験できる勾玉、バードコール、ビーズクラフトの他に予約制の古代ガラスもあり

【お問合せ先】
キトラ古墳壁画体験館 四神の館
開館時間……9：30～17：00 (季節により変更あり)
入場無料 休館日……年末年始 (12月29日～1月3日)
電話番号 0744-54-5105
HP : <https://www.asuka-park.go.jp/>

「営農キトラ」

明日香村阿部山。キトラ古墳で有名なこの地で10年間、実にユニークな耕作農地改革を行なっている組織がある。

「営農キトラ」。「集落の放棄農地は自分たちで守ろう」という意志のもと、大和当帰(セリ科の薬草)を中心に、現在22名で活動している。



高級品種「大和当帰」栽培の手間には驚かされることばかり。4月には折れぬように丁寧に、想像以上の雑草を根から手で除く。害虫も手

で除き、食品デンプンを利用して殺虫する。苦勞の末、一年かけて育てた苗を4月に植栽。それから又一年、同じ事を繰り返して、12月の収穫時には、一本ずつ、小枝で土を払いながら、根が折れぬよう大切に収穫。土つきのまま2月まで乾燥させたら湯もみし、形を整えて乾燥し、4月に出荷するという、まさに丸2年を要する手のかりりよう。

トウキの大半は県内の製薬卸会社に出荷されるが、化粧品会社とコラボし、大和トウキ、オオバク、ジオウ等、和漢植物がたっぷり配合された「当地コスメ」ならこそめ」が好評だ。



代表の山本雅義さん(69才)は「これからも大和トウキを中心に遊休農地解消に取り組み、地元の結束を深めて、農業法人化を目指したい」と意気込む。

昔ながらの手法や知恵が実は一歩あたらしいと実感した。

※「ならこすめ」は村内「飛鳥びとの館」「明日香の夢市」「キトラ四神の館(売店)」にて販売しています



オールイン美容液(化粧水・乳液・美容液)と保湿クリーム 各2,362円
和漢エキスタっぷりでお肌プルプル

イベント報告

鳥のように空高く！
羽ばたく風

第6回風揚げ大会開催

去る1月15日(日)「第6回風揚げ大会」を開催し、雪がちらつくなか3歳から10歳の児童と保護者ら約30人が参加されました。

参加者は干支「酉」をテーマに六角たこを制作。まず、鶏、ヒヨコや四神・朱雀など思い思いの鳥を色とりどりにデザイン。その後、竹ひごを付け、たこ糸を結び、バランスをとるなど保護者や飛鳥応援大使のメンバーらにお手伝いいただきながら約2時間かけて、風を完成させました。

午後からは、国営飛鳥歴史公園石舞台地区芝生広場に移動し、風揚げスタート。開始後すぐに木に風が引つかかっってしまうなどのハプニングもありましたが、子どもも大人も夢中になって楽しんでいました。



私と飛鳥



カリコリ大根の生みの親

私は昭和13年生まれの78歳。飛鳥駅前サポーターのメンバーです。サポーター活動の一環で、飛鳥駅前で育てた大根を漬物にして販売し、その収益を花の種や苗の費用に充て、駅前を美しくする……そんな取り組みをしています。サポーターの皆さんは自分の得意な分野を担当しています。私は漬物作りを伝授しています。

戦後、私は大阪で育ちました。米がなかなか口に入らない時代、糠も貴重でした。その当時、大根は農家さんから下肥(畑の肥料にするため)に、お便所を汲み取ってくれる)のお礼としていただいていた。母は大根を保存する為に、糠を買ってまで大根の糠漬けを作ってくれました。そのおいしかったこと……。今では見様見真似で漬けていたその味を再現するために、きちんと分量も割り出しました。糠・塩・たかの爪、そして渋柿の皮など自然由来のお漬物です。

最初は「売れへんかったらどうしよう」と不安でしたが、毎年早々に完売して、感謝の気持ちでいっぱいでした。皆、ボランティアで活動しているのでお値段もうんとお安いのがいいんでしょうか(笑)

生まれ故郷の奈良・明日香村で、この年になっても必要としてもらえる喜びとサポーターの皆に会える楽しみを胸に、これからもできる限り活動を続けていきたいと思っています。

飛鳥駅前サポーター 中原正子



編集後記

昨冬、飛鳥駅前サポーターのオリジナルジャンパーができました。作業やイベント時に「何を着て行こう？」と悩むことなく、このジャンパーさえ一枚羽織れば外出、即、OK！オレンジ色のビタミンカラーは心も元気にしてくれます。ロゴはサポーター有志のデザインです。

現在は30代から80代のサポーターが活動しています。参加は自由で気負いはゼロです。「明日香が好き」なだけを取り柄の私ですが、サポーターの皆と同じ空間に居るだけでほっと幸せな時を感じます。

この紙面を借りて、サポーター募集をさせていただきます。4ページのマップ下「古都飛鳥保存財団」までお問合せください。是非一緒に……身に魅になる事、間違いなしです。



新子 信子